

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Written English II		
英文授業科目名	Academic Written English II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 知能機械工学科		
担当教官名	菅原 恵子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>リーディング力の養成には、まずリスニングから入ることが効果的である。ビデオを観て正しい英語を聞いた後、スクリプトを読むことにより読解力の養成を図る。英文を繰り返しインプットすることが正確な英語のアウトプット（スピーキング、作文力）へとつながるため、ビデオリスニング、リーディング、語彙力の強化及び英語表現の学習を通じて、総合的英語力の向上を目指す。パラグラフ・ライティングの学習を通じて、エッセーの書き方も学ぶ。レセプションレベルの英語力だけでなく、プロダクションレベルの英語力の向上を図る。</p>

【前もって履修しておくべき科目】

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
Academic Written English ?T

【教科書等】
<p>NHK BS English News Stories What's on Japan 2 衛星放送で学ぶ英語 2007年版 山崎達郎 Stella M. Yamazaki 著 金星堂出版</p>

【授業内容とその進め方】

NHK衛星第一放送のNEWS WATCH やWHAT'S ON JAPAN から採られた日本社会や近隣諸国の主な出来事や経済、文化、科学の最近の動向などをまとめた今日的话题をテーマとしたビデオ教材を使用する。ビデオを数回観てまず耳による内容の理解を図る。その後、エクササイズを通して内容の確認をし、ディクテーションを行う。ビデオスクリプトを読むことで英文の正確な理解をはかり、リーディング力と語彙力の養成を図る。ここで正しい英語表現を学び、それを、次の各テーマに沿ったディスカッションで使用することを目指す。それぞれのテーマに関する各自の意見を構築し、最後に各自の独自の考えを英文に書いてまとめる。その他に、プリント教材を用いて、パラグラフィティングの方法を学ぶ。正しい英語を使用する事は重要であるが、英語を話す時はコミュニケーションが成立すれば良いと居直って、間違いを恐れずに積極的に授業に参加することを期待す。又、この教科書にはDVDがついているので、自宅学習も可能であり、ヒアリング力の向上も学生個人個人の努力次第である。授業では、説明、質問などは日本語を用いるが、可能な範囲でなるべく英語を使う。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

積極的に授業に参加し、活動することが高い評価を得られる。各課毎に提出を求められる各自の意見をまとめた作文の評価、及び授業への参加度が平常点とされ、全体の50%を占める。残り50%は期末試験の結果による。授業の性質上毎回の出席及びessayの提出は不可欠である。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けません。質問等は電子メールで受け付けます。

【学生へのメッセージ】

授業には積極的に参加することを望みます。必ず教科書の予習をしてきてください。また、英語を使う時、間違いを恐れなくてコミュニケーションが成立することを重視して積極的に発言して下さい。エッセーは必ず提出してください。

【その他】

キーワード

Use English as often and as much as possible!

電気通信大学 平成19年度シラバス

--

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けません。質問等は電子メールで受け付けます。

【学生へのメッセージ】

授業には積極的に参加することを望みます。必ず教科書の予習をしてきてください。また、英語を使う時、間違いを恐れなくてコミュニケーションが成立することを重視しましょう。エッセーの課題は必ず提出してください。

【その他】

Use English as often as, as much as possible. Don't be afraid of making mistakes. It's quite all right as long as communication is established.